

## 2004年夏（6～8月）の東北地方の天候

- ・高温、東北太平洋側の多照
- ・平成16年新潟・福島豪雨など梅雨末期の豪雨
- ・台風が日本に6個上陸（1951年以降で最多）

### （1）2004年夏（6～8月）の概況

梅雨入り後、天気のぐずつく時期もあったが、梅雨前線の活動は不活発で晴れて暑い日が多かった。しかし、7月中旬は梅雨前線が北陸から東北地方に停滞して活発化し、平成16年7月新潟・福島豪雨など各地で梅雨末期の集中豪雨となり、大きな被害が発生した。梅雨明け後は、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑さの厳しい日が続いたが、8月中旬以降は前線や台風の影響を受けやすく曇りや雨の日が多くなった。また、8月中旬まではオホーツク海高気圧がほとんど出現しなかったこともあり、夏（6～8月）としては高温、東北太平洋側を中心の多照となつた。

なお、台風が日本に上陸したのは、6月に2個、7月に1個、8月に3個で1951年以降最多となり、東北地方を通過・接近したため暴風や大雨となり、大きな被害が発生した。

3ヶ月平均気温は高い。3ヶ月間降水量は平年並。3ヶ月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。

### （2）各月の天候経過

6月： 梅雨入り後、天気のぐずつく時期もあったが、梅雨前線の活動は不活発で、中旬にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。また、台風の北上や南から暖かい空気が流れ込んだため、6月は高温となった。一方、オホーツク海高気圧はほとんど現れず、東北太平洋側は多照となつた。

太平洋高気圧は、平年に比べて北への張り出しが強く、西への張り出しが弱かった。このため、台風は太平洋高気圧の縁に沿って進み、台風第4号と第6号が四国へ上陸した。

月平均気温は高い。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

7月： 中旬は、梅雨前線が北陸から東北地方に停滞し、曇りや雨の日が続いた。特に、12～13日の平成16年7月新潟・福島豪雨など各地で梅雨末期の集中豪雨となり、大きな被害が発生した。しかし、上・下旬は高気圧に覆われ概ね晴れて暑い日が続いたため、東北地方は高温となった。また、下旬の中頃は大気の状態が不安定となって各地で雷雨となり、落雷等により被害が発生した。

月平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。

8月： 台風第11号から変わった熱帯低気圧が5～6日に東北北部を通過し、台風第15号は20日に青森県を横断、台風第16号は30～31日に東北地方に接近したため、各地で暴風や大雨により大きな被害が発生した。なお、上旬は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多くなったが、中旬以降は前線や台風、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多く低温となつた。

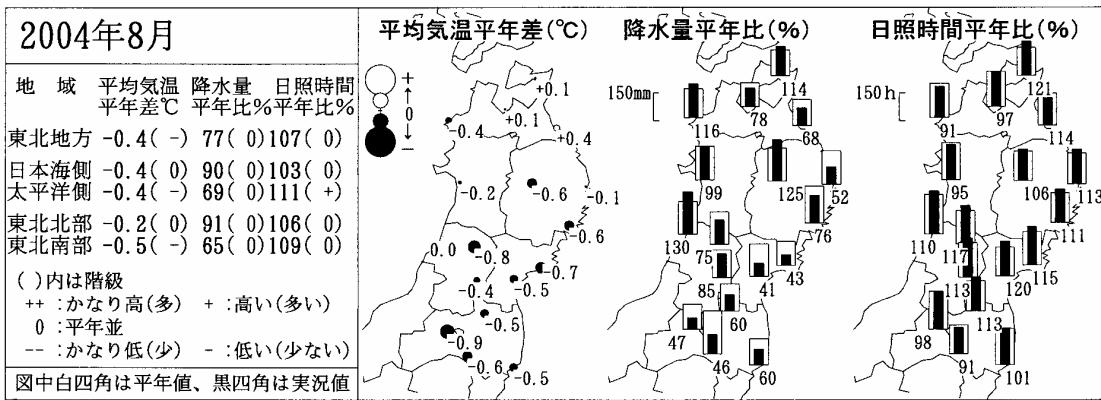
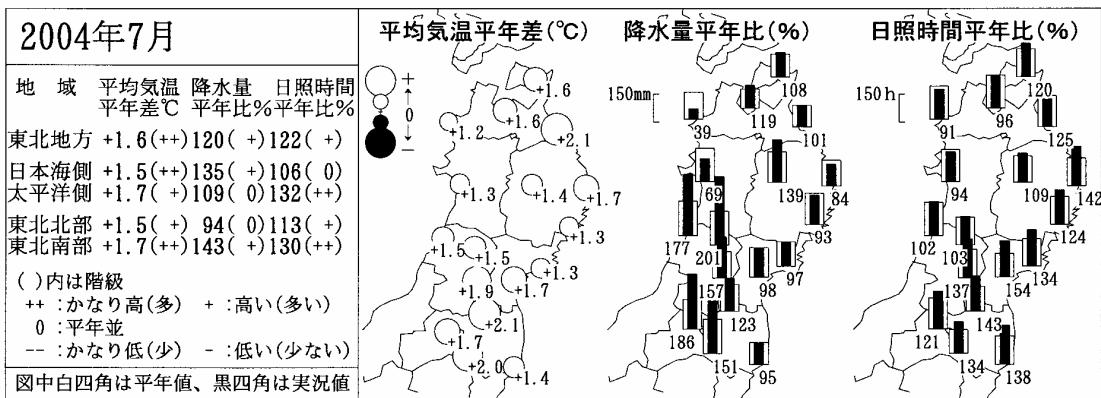
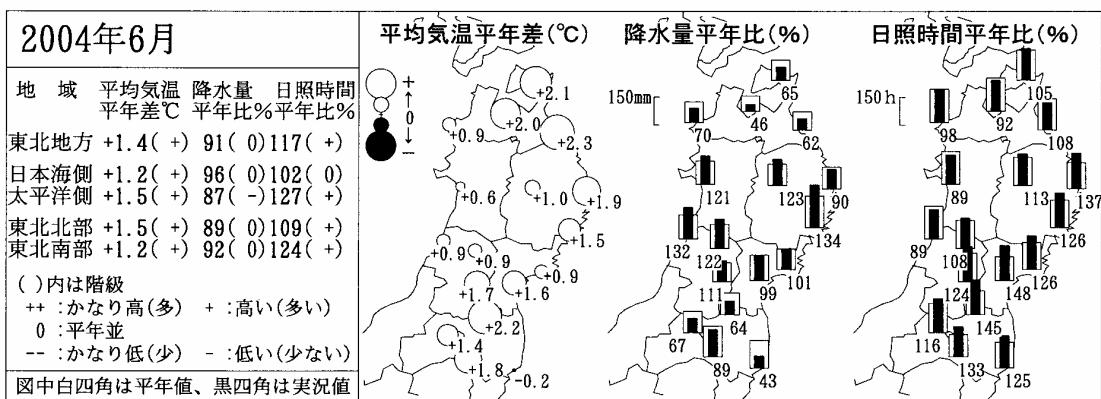
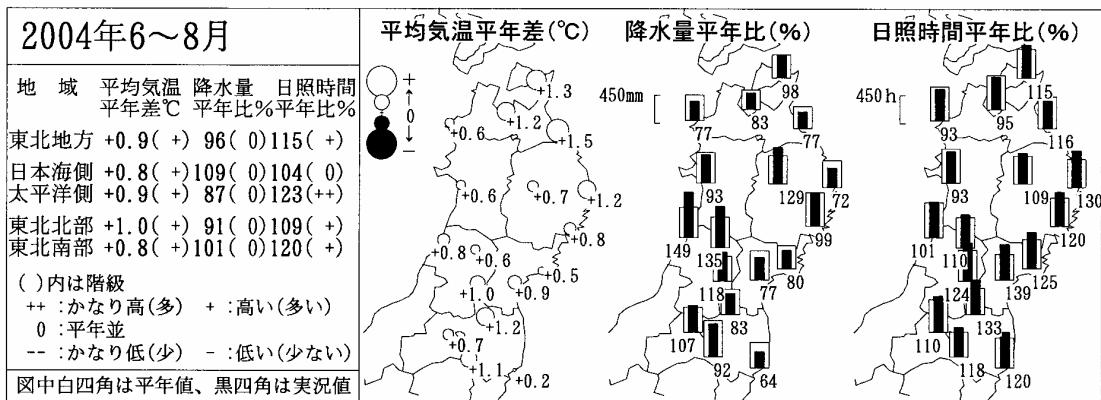
月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。月降水量は平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、4ページ目脚注を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2004年夏(6~8月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



注) 東北日本海側: 青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側: 青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部: 青森県、秋田県、岩手県

東北南部: 宮城県、山形県、福島県

(4) 2004年夏(6~8月)の気候表

地 点	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) mm % 階級			日照時間(平年比) h % 階級		
	mm	%	階級	h	%	階級		
青 森	21.6 (+1.2)	+	262.0 ( 83) 0	523.4 ( 95) 0				
深 浦	21.1 (+0.6)	+	316.5 ( 77) -	507.7 ( 93) -				
む つ	20.2 (+1.3)	+	363.0 ( 98) 0	536.6 ( 115) +				
八 戸	21.1 (+1.5)	+ *	274.5 ( 77) 0	591.3 ( 116) +				
秋 田	22.6 (+0.6)	+	455.5 ( 93) 0	509.1 ( 93) -				
盛 岡	21.7 (+0.7)	+	593.5 ( 129) +	495.8 ( 109) +				
大 船 渡	21.2 (+0.8)	+	538.5 ( 99) 0	551.6 ( 120) +				
宮 古	20.6 (+1.2)	+	316.5 ( 72) -	591.8 ( 130) + *				
仙 台	22.4 (+0.9)	+	364.0 ( 77) -	571.6 ( 139) + *				
石 卷	21.3 (+0.5)	0	294.5 ( 80) 0	587.8 ( 125) + *				
山 形	23.5 (+1.0)	+	467.0 ( 118) 0	612.6 ( 124) + *				
新 庄	22.2 (+0.6)	+	663.0 ( 135) +	531.7 ( 110) +				
酒 田	23.3 (+0.8)	+	728.0 ( 149) + *	572.9 ( 101) 0				
福 島	24.1 (+1.2)	+	340.0 ( 83) -	560.9 ( 133) + *				
若 松	23.4 (+0.7)	+	436.5 ( 107) 0	581.4 ( 110) +				
白 河	22.3 (+1.1)	+	536.0 ( 92) 0	475.4 ( 118) +				
小名浜	21.5 (+0.2)	0	265.5 ( 64) -	580.4 ( 120) +				

(注) 1. 年平均値は1971~2000年の資料から求めた。

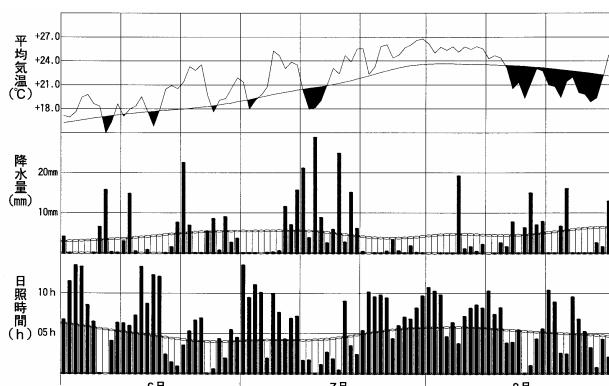
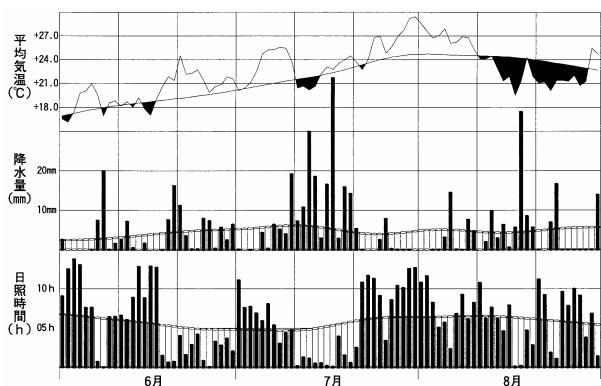
2. 「階級」の欄の符号は、+ :高い(多い)、0 :平年並、- :低い(少ない)ことを示す。

各階級の区分値は、1971~2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、階級が「高い(多い)」「低い(少ない)」となった地点のうち、1971~2000年間の中で、高い(多い)方または低い(少ない)方から10%に入る極端な値である場合には、階級の「+ -」に\*を付加した。この場合には、かなり高い(多い)、かなり低い(少ない)と表現できる。

3. 括弧付きの値は、欠測を含む値であることを示す。また、欠測が多く月の値を求められない場合は「×」とした。

(5) 2004年夏(6~8月)の日別経過図



<東北日本海側>

<東北太平洋側>

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線と点線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

( 6 ) 2004 年夏 ( 6 ~ 8 月 ) の極値・順位の更新  
 ( 季節平均気温、季節降水量、季節日照時間の 3 位以内のみ )

3 か月間降水量 多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量 ( mm )	これまでの最大 ( mm )	統計開始年	平年値 ( mm )
3 位	新庄	663.0	840.5 ( 1998 )	1986 年	491.1

3 か月間日照時間 多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	日照時間 ( h )	これまでの最大 ( h )	統計開始年	平年値 ( h )
2 位	仙台	571.6	626.9 ( 1978 )	1927 年	411.0
3 位	新庄	531.7	582.2 ( 1994 )	1986 年	484.7

( 7 ) 各月の極値更新  
 ( 月平均気温、月降水量、月間日照時間の 1 位のみ )

月降水量 少ない方からの極値更新

月	地点名	降水量 ( mm )	これまでの最小 ( mm )	統計開始年	平年値 ( mm )
8 月	白河	104.5	116.5 ( 1996 年 )	1994 年	228.2

( 8 ) 日最高気温 30 以上日の日数と今夏の最高気温

	6月			7月			8月			夏			今夏の最高気温 ( ) ( 起日 )
	03年	04年	平年	03年	04年	平年	03年	04年	平年	03年	04年	平年	
青森	0	1	0.4	0	7	3.9	2	8	7.6	2	16	11.9	34.8 7月 25 日
深浦	0	0	0.0	0	4	1.4	0	6	3.9	0	10	5.2	35.0 7月 31 日
むつ	0	0	0.1	0	6	2.1	0	3	4.0	0	9	6.2	32.6 7月 31 日
八戸	0	0	0.6	0	10	5.2	2	8	7.4	2	18	13.2	35.9 7月 31 日
秋田	1	1	0.2	0	8	4.9	4	10	9.7	5	19	14.8	36.4 7月 31 日
盛岡	1	1	0.8	0	13	6.5	3	9	10.1	4	23	17.4	34.4 7月 25 日
大船渡	1	2	0.4	0	7	3.4	3	6	5.7	4	15	9.6	33.8 7月 9 日
宮古	3	0	0.6	0	12	4.4	3	7	6.8	6	19	11.7	34.4 7月 30 日
山形	4	6	2.4	0	20	11.7	12	16	17.5	16	42	31.6	35.8 7月 31 日
酒田	1	2	0.5	0	12	6.5	6	11	12.6	7	25	19.6	36.9 7月 31 日
新庄	0	0	1.1	0	14	7.9	5	14	13.0	5	28	22.0	34.2 7月 31 日
仙台	2	2	0.4	1	11	5.1	3	14	9.9	6	27	15.4	34.0 8月 13 日
石巻	1	1	0.1	0	3	2.3	4	5	4.8	5	9	7.2	32.0 8月 12 日
福島	5	11	3.4	2	21	13.3	15	22	18.1	22	54	34.9	36.3 7月 7 日
若松	4	9	2.2	4	17	12.1	14	16	18.4	22	42	32.7	35.1 8月 19 日
白河	1	1)	0.6	1	14	6.8	10	13	10.7	12	28	18.2	34.2 7月 7 日
小名浜	2	1	0.3	0	3	1.9	1	6	3.8	3	10	6.0	34.6 8月 20 日

括弧付きの値は、欠測を含む値であることを示す。

## ( 9 ) 2004 年夏 (6~8 月) に日本に上陸した台風

今年の台風は、4月5日に第1号が発生し、9月1日現在18個発生している(平年14.1個、昨年13個)。夏(6~8月)の台風発生数は平年を上回り、上陸数は1951年以降最多となった。

今夏は、太平洋高気圧が平年より北東に位置し、高気圧の縁辺を回って日本付近に上陸・接近しやすかつた。また、今夏は上陸・接近した台風の勢力が強く、被害が大きかった。その原因の一つとして、日本周辺の海面水温が平年に比べ高く、台風が日本付近まで北上した後も勢力が衰えなかつたことが考えられる。

6月7日に発生した台風第4号は、11日に四国に上陸した後温帯低気圧となつたが、東北地方への影響は小さかつた。

6月13日に発生した台風第6号は、21日に四国に上陸した後、日本海を北上したため、東北地方は暴風や大雨となる所があつた。

7月25日に発生した台風第10号は、31日に四国に上陸した後、日本海で熱帯低気圧となつたが、東北地方への影響は小さかつた。

8月4日に発生した台風第11号は、4日に四国に上陸した。その後、日本海で熱帯低気圧となり、東北北部を通過したため、大雨となつた。

8月16日に発生した台風第15号は、日本海を北東に進んだ後、青森県に上陸したため、東北北部を中心記録的な暴風となり大きな被害が発生した。

8月19日に発生した台風第16号は、30日に九州に上陸した後、中国地方から日本海に抜け、速度を速めて東北北部に接近した。このため、暴風や大雨となり大きな被害が発生した。

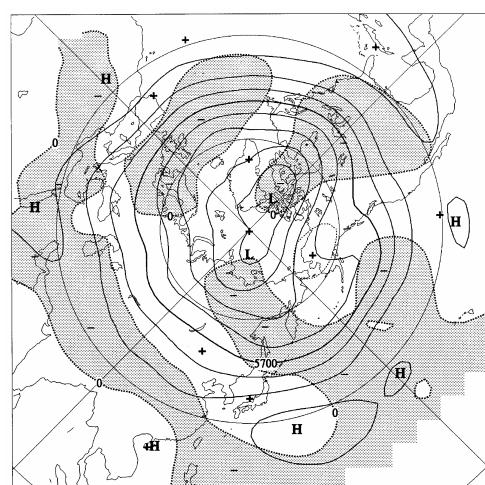
### 今年と平年の月別の台風発生数と上陸数 (2004年9月1日現在)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年			1	2	5	2	8					
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3
上陸数	今年						2	1	3				
	平年						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0	2.6

## ( 10 ) 2004 年夏 (6~8 月) の大気の流れの特徴

夏(6~8月)の500hPa高度では、亜熱帯高気圧の北への張り出しが平年より強く、日本付近は正偏差に覆われた。一方、シベリアからオホーツク海にかけては負偏差となり、オホーツク海高気圧はほとんど出現しなかつた。このため、東北地方は高温となり、東北太平洋側は多照となつた。

しかし、亜熱帯高気圧の西への張り出しは弱く、南西諸島付近は負偏差に覆われており、亜熱帯高気圧の縁辺を回って台風や熱帯擾乱が日本に上陸・接近しやすかつた。



2004年夏(6~8月)平均500hPa高度等高度線図: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差